

## はじめに

今年度は、障害福祉事業所としての特徴というよりも、日本国内に共通する問題が課題であった。その第1は、賃上げの問題である。本法人は、平成23年度に給与規程を大幅に見直して以来、令和4年度に年齢給を一部見直した以外、昨年度までベースアップによる給料表の改正などは行っていない。そのため、職員の給料増は年齢給の増や昇任以外では、定期昇給によるのみであった。これが、例年の人件費増の要因であった。

本年度は、正規職員及び嘱託職員の全員を対象に、物価高騰などに対応するため給料表を4号給アップした。定期昇給と合わせた職員のベースアップは、額にして月額平均8千円程度、率にして約3.61パーセントアップであった。定期昇給と合わせて、年間約600万円を超える人件費増となった。

また、今後の問題として、最低賃金（現在992円）の将来の改定に対応していくことは、これからの大きな課題である。

第2は、物価高騰の一つである米価高騰による給食食材費の値上げである。就労センター及び生活支援センターを担当する給食委託業者からは年度内の値上げの要求があり、一部対応したが、来年度予算への影響は、約100万円の増となる。

また、戸畑障害者地域活動センターを担当する給食委託業者からも、値上げ要請があり、来年度予算への影響は、約54万円の増となる。

給食は、利用者にとっては少ない楽しみの一つであり、特に施設入所者にとっては、代替えの利かないものであることから、経費の削減はなかなか難しいものである。

前年度から少し落ち着いていたコロナウィルス感染症については、7月に生活支援センターでクラスターが発生しました。これまでの感染と違って、直接介助などをしていない管理職員にも感染が広がり、利用者に大きな負担を掛けることに加え、24時間の介助体制の維持継続に支障が出る可能性も危ぶまれました。一部他のセンターの手助けを借りましたが、発生から19日間、25名の感染者が発症したにもかかわらず、途切れの無い介助を実施しました。ただし、日中活動の営業休止などの影響で、約450万円程度の収入減が発生している。

このような状況の中、法人全体の令和6年度決算は、事業収入は前年度比約7.14%増（約5億606万円）で、また、事業支出は、約4.77%増（約4億8154万円）となりました。

## （1）主な事業計画の取り組み結果（概要）

### ア 経営企画室

- ・経営会議を月1回開催し、法人経営についての協議を行い、適時課題等に対応した。
- ・ベースアップ（職員、嘱託4号給アップ）を実施し、職員の待遇改善に努めた。
- ・人事評価のため、特に定期評価の際、評価者が適正に人事評価が行える日数を確保した。
- ・新卒者の確保のため、採用方法を見直し実施した。（新卒者3入職）
- ・嘱託職員2名を正職員化した。（国家資格所持者1名、昇格試験1名）

## イ とりはた玄海園就労センター

### 《就労継続支援B型事業及び就労移行支援事業》

#### □ 堅実で効率的な経営

##### 安定的収入の確保・新規利用の流れを確立

- ・特別支援学校からの実習生6名の内、卒業後2名を利用者として受け入れた。
- ・市内相談事業所などへの広報活動により、11名の見学があり、内7名が体験利用、うち5名を利用者として受け入れた。
- ・祝日を17日間開所したことにより、延べ397人の追加利用があった。

##### 各種加算取得に向けた取り組み

- ・就労移行支援は、5名が就職し、来年度の基本報酬が最高ランクとなる。また、就労移行関連で、就労移行連携加算、移行準備支援体制加算、支援計画会議実施加算も取得した。
- ・就労継続支援B型は、平均工賃が3万円超えを維持し、基本報酬ランクを維持した。

##### 就労支援の強化・定着支援事業に関する取り組み（質と実績）

- ・就労移行者を中心に施設外作業をプログラムに組み込み、企業見学や実習の調整を行い、4か所の企業実習を調整できた。
- ・月2回ハローワークに同行し、県の委託業者が行う就職説明会に8名が参加し、1名が企業実習につながった。

#### 就労支援事業（生産活動）

印刷・簡易・清掃部門で22,113千円、おやつ部門で2,209千円の合計24,322千円の収入となり、予算目標額の97.6%であった。

##### 印刷事業

- ・官公庁発注分が9,099千円（前年から1,171千円減）、予算比91.0%に留まった。官公庁の大口冊子の受注はあったものの、他冊子類の受注が減ったことが要因。
- ・オフセット印刷（封筒、帳票類）の依頼は多いため、今後は、オンデマンド印刷機を更に活用していく。

##### 簡易作業

- ・簡易作業では、主力の園芸用品組立が961千円。予算比123.1%と順調でした。
- ・ペットフード事業（袋詰め）については、受注量拡大した。（週150kg→200kg）

##### おやつ作業

- ・学童保育向けのおやつが、1,304千円。予算比63.4%の売り上げに留まった。原材料の高騰により、商品価格への転嫁を進めた結果、学童保育からの受注減となった。ただ、バザーを含めたその他の販売は好調であった。
- ・ペットフードのおやつ開発に向けて、ペットフードコーディネーターと技術指導契約を結び、本格的な商品開発を進めていく。

## 施設外作業

- ・既存3か所の作業を実施。（リンデンバウム清掃、ポリテクセンター草刈り、デジタル化事業（育成会等と共同 国委託：国立国会図書館の蔵書のデジタル化）

## □ サービスの質の向上

### 個別支援計画を意識した取り組み、実践

- ・相談事業所との連携、SPISも積極活用、家族同席のモニタリング、ケアカンファレンスの開催など

### 持続可能なサービス提供

- ・視覚的に分かりやすい手順書やマニュアル作成
- ・月1回のミーティングの実施

### 精神障害者への支援を充実させる（発達障害を含む）

- ・SPISの利用者増、臨床心理士とアドバイザー契約継続
- ・就労支援プログラムの充実など

### 就労支援の充実

- ・2名に復職に向けたプログラム提供を行い、2名とも復職することができた。
- ・職場実習先を4件開拓し、延べ5人が参加した。

### 利用者主体の活動を支援

- ・利用者で構成する自治会は主体的に活動している。
- ・健康維持や体力向上を目的にスポーツクラブを継続し、週1回の運動プログラムを実施。また、施設的环境美化のため、園芸クラブの活動を実施し、玄関前広場の花壇整備に取り組んでいる。その一環として戸畑あやめの保存・普及にも取り組んでいる。

### 作業技術向上のための取り組み

- ・各作業所でホワイトボードを活用し、行動予定や作業内容が一目で分かるように表記を見直した。

### 工賃支給に関すること

- ・工賃支給実績は年度末調整金を含み、総支給額は10,286千円。月額平均31,386円（福岡県実績報告額）で昨年の実績から95円の増となった。

## 《就労定着支援事業》

## □ 堅実で効率的な経営

### 利用者の確保

- ・相談支援事業所から5名、他法人から3名を定着事業に受入れることが出来た。
- ・定着率92.8%（3年間実績）となったため、報酬単価は1ランク下がった。昨年度は、100%の実績。

### 支援・専門職の配置に応じた報酬（加算）の取得

- ・ジョブコーチの研修は遠方であったため受講を見合わせ、来年度以降受講予定。

## □ サービスの質の向上

### 個別支援計画の作成・充実

- ・定期的面談や企業訪問で課題の整理を行い、目標設定に伴い再アセスメントを実施。

### 定着につながる仕組みづくり

- ・利用者交流会は依然中止。休日や帰宅途中など、気軽にセンターに立ち寄ってもらい、気軽に相談ができる時間を設けた。

### 切れ目のない支援（確実な引継ぎ・ケース移管）

- ・定期面談時に相談支援専門員に同席や自宅訪問を依頼し、就労面・生活面を一体的に支援する体制を整えた。

## ウ ここ Color 放課後等デイサービス

### □ 堅実で効果的な経営

#### 利用者の確保

- ・見学や利用者相談等随時受け入れを行った。自閉症支援に力を入れた事業所であることを地域や関係者に周知した。
- ・高等部卒業を見越して、新規利用者の受け入れを計画的に行っている。

#### 支援実績・専門職配置に応じた報酬（加算）の取得

- ・『関係機関連携加算』、『家族支援加算』、『自立通所訓練加算』などを取得した。

### □ サービスの質の向上

#### 重度自閉症児支援に対する環境整備（安全で安心して過ごせる環境づくり）

- ・自閉症支援のアドバイザー研修を継続し、専門性や支援技術の向上を図った。
- ・活動室のレイアウトを障害特性に応じて整備している。

#### 良質な支援につながる記録類の充実

- ・計画的にアセスメント実施。アセスメントに基づいて支援計画立案や自立課題作製。
- ・連絡帳には児童の様子を細かに記すなどして家庭との情報共有、連携を図った。

#### 専門職員の育成・研修

- ・OJTによりチーム全体の自閉症支援技術の向上に努めた。

## エ とりはた玄海園生活支援センター

### □ 堅実で効率的な経営

#### 安定的な収入の確保と収入増

- ・入所登録は年間通して40名満床であった。
- ・入退所は、入所3名（病院から1名・通所から2名）、退所3名（入院2名・高齢者施設1名）であった。
- ・入所利用者数は、延 14,257 人（前年比 640 人増）で利用率 97.7%、生活介護は、延 10,576 人（前年比 355 人減）で利用率 104.9%、短期入所は、延 498 人（前年比 68 人減）で利用率 45.5%であった。
- ・入所支援の増は、退所した2名以外に入院が長期化する方がいなかったこと。（昨年度は入院者が相対的に多かった。）
- ・生活介護の利用者減は、7月にコロナウィルスの集団感染が発生し、11日間の営業中止を要したことが大きく影響した。
- ・入所者3名の支援区分が重度化し、平均障害支援区分が 4.9 から 5.0 となった。

**各種加算の取得・維持に向けた取り組み**

- ・今年度は、報酬改定により人員配置体制加算(2.5:1 38単位→1.7:1 212単位)の増となった。

**地域移行の推進**

- ・60代の女性が1名、高齢者施設に入所した。

**□ サービスの質の向上****【日中活動の充実】****創作レクリエーション活動のプログラム**

- ・障害者ボランティア協会から紹介されたレクリエーショングループが行う月1回のゲームやダンスが好評である。

**生産活動**

- ・廃材のリサイクル分別作業により、月額平均工賃1,227円（前年84円増）を確保し、やりがいを持てる環境づくりを実現した。

**【余暇活動への取り組み】**

- ・土日祝日のカラオケやYouTube鑑賞に個別の運動機会を取り入れている。
- ・個別外出は、近隣コンビニ、スーパーを中心に実施。

**【健康管理】**

- ・7月のコロナウィルス感染症は入所者1名の退院後の発症から、入所者13名、職員11名が罹患した。その後、BCPに連動したマニュアルを見直した。
- ・感染症予防のために検温等体調管理、健康体操継続、入浴時の身体状況や爪の確認等も行っている。

**【食事提供サービスの向上】**

- ・嗜好調査を行い、利用者のニーズを把握した。
- ・給食満足度は「満足」「おおむね満足」合わせて91%であった。
- ・リクエストのあったメニューやデザート（和洋の焼き菓子等）を取り入れ、メニューに目新しさを追加した。
- ・イベント食の幅を広げるため、月間行事に加えて、「ご当地メニュー」を今年度は2回実施した。（沖縄メニュー6月・北海道メニュー10月提供）
- ・感染症発生時は、ディスポ食器を使用し、全員居室配膳を行った。

**【行事の企画と実施】**

- ・コロナウィルス感染拡大により7月の夏祭りを中止せざるを得なかった。9月に代替で「アフタヌーンパーティ」として焼き鳥やたこ焼き、ゲームを提供し、好評であった。
- ・10月は地域の西戸畑まち協文化祭と共同で「とりはたフェス」を初めて開催し、雨天にもかかわらずカラオケ、出店などに多くの地域の参加者を得て盛大であった。
- ・11月の家族交流会では、コロナ禍以降久しぶりに利用者家族に給食を提供し、好評を得た。また初めて職員との意見交換会を開催し、日常の利用者支援等について意見交換と情報を共有できた。
- ・その他バスハイク等も実施し、コロナ禍以降で多くの行事が開催でき利用者の外出機会も提供ができた。

**【業務改善の取り組み】**

- ・給食提供にコンベクションオーブンの更新、情報共有と円滑な連絡手段としてインカムを増設、職員用 PC も3台更新した。他、利用者用電動ベッドの増設、事務用複合機を更新し、11 月には全館照明を LED 照明に交換が完了した。

**【職員のスキルアップ】**

- ・今後の介護業務軽減を目的に主任2名を福祉機器展に派遣した。
- ・11 月は利用者の日常の正しい支援と適切な対応を目的に「利用者への食事支援と基本的配慮」をテーマに内部研修を実施した。
- ・12 月虐待の疑い、苦情案件の発生により、虐待防止チェックを全職員対象にチェックシートで実施した。
- ・2 月チェックリストをもとに、「どのような施設でありたいか」等、支援者としての基本に立ち返る小グループ研修を開催した。

**【感染症防止対策の継続】**

- ・7月のコロナウィルス感染症拡大を受けて、8月に感染症 BCP、マニュアルを見直し更新した。
- ・12 月から1月を感染症警戒強化期間として外出の一部制限や消毒、換気等の基本対策の強化、集団感染発生を想定した居室隔離とその対応について内部研修を実施した。

**【防災対策】**

- ・6月昼間想定、12 月夜間想定 of 消防避難訓練を実施した。前年よりスムーズに避難できた。インカムの活用による職員連携も向上した。
- ・3月は戸畑消防署に災害対応の講話を依頼し、防災について意見交換し、防災意識の向上を図った。

**【防犯対策】**

- ・玄関の施錠と電子錠の活用を徹底した。また防犯カメラは防犯に限らず、利用者の事故、ヒヤリハットの検証等にも有効活用されているが、外周カメラの故障が確認されたため4台を現状復旧した。

**オ 戸畑障害者地域活動センター****□ 堅実で効率的な経営****安定的収入の確保**

- ① モニタリング時、取り組みの定着・リハビリ訓練の強化を目的に利用曜日増を提案し、1 人の追加利用につながった。
- ② 新規利用者受け入れや家族の要望を踏まえ、送迎ルートを細かく編成し直し利用者増に取り組んだ。その効果として、実利用人員 1.0 の増につながった。
- ③ 利用日上限に達していない利用者に追加利用を提案した。その結果、生活介護で延べ 15 人、訓練等事業延べ 26 人が該当した。また、予備日等を活用した行事を開催し、延べ 99 人の追加利用につなげた。
- ④ 特性をふまえ活用可能な加算種類の確認を行い、新たに 2 人が重度加算を取得し、5 人が上位区分への変更となった。

## 延べ利用者数での比較 (人)

| 事業     | 実績     | 前年度比 | 事業計画比 |
|--------|--------|------|-------|
| 就労継続B型 | 6,445  | ▲41  | ▲263  |
| 生活介護   | 4,623  | 343  | ▲137  |
| 自立訓練   | 782    | ▲125 | ▲428  |
| 全 体    | 11,850 | 177  | ▲828  |

## 定員との比較 (人)

| 事業     | 定 員 | 実利用者数 | 前年度比 | 充足率   |
|--------|-----|-------|------|-------|
| 就労継続B型 | 26  | 24.9  | 0.1  | 95.8% |
| 生活介護   | 18  | 15.0  | 1.0  | 83.3% |
| 自立訓練   | 6   | 3.0   | ▲0.5 | 50.0% |
| 全 体    | 50  | 42.9  | 0.6  | 85.8% |

※令和6（2024）年4月 定員変更

**新規利用者の流れの確立**

- ・法人外の相談事業所や家族などから18件の問い合わせ。うち5人が体験利用を通じて利用につながった。
- ・特別支援学校の特別実習及び通常実習として延べ9人を受け入れ、卒業後就労1人、生活2人、自立1人の受け入れが確定した。
- ・営業用パンフレットを更新し、近隣相談支援事業所や精神科クリニック、関係機関に営業活動を実施し、毎月第1土曜日及び第3水曜日に見学会を実施した。

**人材育成**

- ・法人内外の研修に46回参加した。
- ・事業継続に必要な研修(サービス管理責任者更新研修・食品衛生責任者)や専門性や組織力向上を目的とした外部研修も受講している。
- ・eラーニング研修を計画的に受講した。特に、接遇マナーや人権尊重に関する内容を集団研修に組み込み、チームとして学ぶ機会にも役立てた。
- ・福祉人材育成への取り組みとして、ソーシャルワーク実習 8人(養成校2校)、精神看護学実習 38人、介護士実習 2人を受け入れた。

**設置目標の達成****【自立訓練事業】**

- ・SPISの利用による支援機関との情報共有
- ・有資格者(社会福祉士・精神保健福祉士)が、利用者のニーズ、課題に沿って支援を行った。
- ・バスハイク、希望参加行事、ミニ行事などへの参加、また作業訓練にも参加した。

**【就労継続支援B型事業】**

- ・利用者の状況や能力の変化に合わせ、年2回工賃評価を見直し、公平公正な工賃支給を行い、月額平均ベースで13%アップした。

- ・収支を適切に管理し、経費等を削減して工賃財源を確保し、工賃の支給総額は、約5,285千円、月額平均工賃は目標値(15,150円)を大幅に超え、17,944円(福岡県実績報告額)となった。令和5(2023)年度と比較し1,429円アップした。

#### **洗濯工房**

価格の適正化や受注方法を見直し、F 施設リネン類の商品 10%値上げを行った。

#### **よろず工房**

自主製品としてオリジナルカレンダーとリメイクハンガーを製作

#### **パン工房**

高校への販売は定着したが、閑散期の対策が必要である。

### **【生活介護事業】**

#### **強度行動障害者への支援の充実**

- ・加算非該当者も含め、環境整備を行い6人までが専用空間での支援につながった。卒後に受け入れた新規利用者に対し1か月のアセスメントを経て、5月より専門的な支援を取り入れ加算取得につなげた。
- ・実習受け入れ時(特別支援学校)から障害特性をふまえた専門的な支援を行った。定例の事例検討会ではなく、支援困難な事例や事故・ヒヤリにつながった個別ケースを中心に支援機関や家族、専門機関等を交えた個別検討を行った。

#### **ポイント制／お仕事掲示板の活性化**

- ・モニタリング時に意向を確認し、利用者が興味を持てる取り組みを「お仕事」として提案した。ポイントの達成者は延べ182人だった。貯めたポイントを活用し、数人ずつにわかれて買い物実習を実施した(17人参加)。
- ・個別の取り組みが中心ではあるが、季節の館内行事やミニドライブ、ふれあいの丘への散歩など、小グループでの取り組みを実施した。

### **□ サービスの質の向上**

#### **【個別支援計画の充実】**

- ・モニタリングやアセスメントの結果をふまえて、個別支援計画や各種加算に必要な計画等に活用した。
- ・文章による説明等が苦手な利用者も多いことから、作業内容説明書に替えて、利用者が手元で活用できるイラストや写真を用いた手順書を活用した。利用者の理解度を確認しながら定期的に内容を見直し、作業の「見える化」を推進した。

#### **【行事の企画】**

- ・3月に「第13回戸活まつり」を開催した。実習経験者も含め計10人のボランティアが参加し、イベントを盛りあげてくれた。午前の部は、屋内外でゲームイベントや利用者制作の絵画やアートの作品を展示し、午後の部から、家族等も参加しステージイベントを行った。
- ・「とかつ健康マイレージ」活動の定着・自主的活動を推奨し、生活習慣や健康に関する学びを提供した。上半期・下半期ごとに職員等の推薦をもとに表彰者を選定し、令和6年度は計5人を表彰した。

- ・整容等講座を2回実施した。8月には、食費と健康の関連性について、2月には専用機材を用い正しい手洗いについて学びの機会を提供した。
- ・訓練等事業を中心に予備日等を活用した行事を年8回企画し、延べ99人の追加利用につなげた。うち4つの行事は生活事業を含む合同行事として実施し、交流の機会となった。
- ・バスハイクの行き先は利用者投票により決定し、また第3土曜日のミニ行事の内容は利用者の要望を踏まえて企画するなど、利用者参画の行事となるよう工夫した。

#### 【給食の提供】

- ・給食アンケート（嗜好調査）を8月と2月に実施し、「リクエスト食」の提供は年10回。その他、月1回以上は季節を感じる行事食や誕生食などを提供した。
- ・お楽しみ（イベント）食として、創立記念行事の松花弁当（4月）・夏のお楽しみメニュー（8月）・新年を祝う膳（1月）。

### カ とりはた障害者相談支援センター

#### □ 堅実で効果的な経営

##### 一定収入の確保

##### 【新規利用者の受入】

年間10名の新規利用者の受入を目標。新規契約者数5名。

##### 【利用者総数】

利用者総数 106人(前年度112人)  
法人内利用者 77.4% 法人外利用者 22.6%

##### 加算の取得

サービス提供場所を訪問し、利用者及びサービス提供場面を直接確認することで、サービス提供時モニタリング加算の取得に努めた。取得件数118件(前年87件)

#### □ サービスの質の向上

##### モニタリングの充実

対象者のニーズや生活背景を細やかに確認し、環境や状態変化が見られたケースについては適切なサービス利用の調整を行った。また、状況に応じてモニタリング周期の短縮が必要と思われるケースについては変更調整をかけた。

##### 障害児相談支援体制の整備

法人内での支援体制の必要性について継続して検討した。

##### 介護保険サービス（介護支援専門員）との連携

介護保険への移行調整3件。両制度利用者については、ケアマネジャーと状態変化等があれば情報共有を行っている。

##### 医療機関との連携

医療機関変更に伴う諸手続き、利用者の入退院時、訪問看護導入時、その他年金申請や後見制度活用に向けての受診調整等を通して、医療ソーシャルワーカー等と連携し、ニーズに沿った支援体制の構築や社会資源の活用について協議した。また、個別ケースの退院前カンファレンスに参加し、医療機関から得た情報を関係機関に

共有することで、今後のサービスの展開や支援方法の確立に繋がった。

### 不足する社会資源の把握、関係機関との連携

相談支援事業所等連絡会議は不定期で2回開催され、1回のみ参加。自立支援会議や相談支援事業者等連絡会議の今後の進め方やあり方について確認する機会となった。困難ケースに関しては、相談員の横の繋がりを活用しながら情報を各方面から収集して業務に活かした。

### 多職種連携の取り組み

個別ケースに応じて多職種との連携を図り、情報共有のためのネットワークの構築に継続して取り組んだ。

### 職員の育成・研修

行動障害支援体制加算取得に必要な研修を受講。利用実績(計画・モニタリング)に付加される加算取得に繋げ、わずかではあるが定期的な収入となり、収入増を実現できた。また、引き続きSPIS(エスピス)を通じて担当利用者2名の発信に対して助言や提案等を行い、利用者の発信しやすい環境調整や関係機関との支援の統一を図ることができた。

## (2) 福祉事業活動について

### ア 利用者数について

単位:人

|             |        | 定員 | R2 年度  | R3 年度  | R4 年度  | R5 年度  | R6 年度  | R6-R5 年度 |
|-------------|--------|----|--------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 就労センター      | 継続 B   | 34 | 7,068  | 7,072  | 7,231  | 7,554  | 6,862  | ▲692     |
|             | 就労移行   | 6  | 1,014  | 844    | 1,554  | 998    | 1,139  | 141      |
|             | 就労定着   | —  | 178    | 152    | 139    | 99     | 123    | 24       |
|             | 放デイ    | 10 | 1,468  | 1,625  | 1,869  | 2,092  | 2,099  | 7        |
|             | 計      | 50 | 9,728  | 9,693  | 10,793 | 10,743 | 10,223 | ▲520     |
| 生活支援センター    | 入所     | 40 | 13,986 | 14,215 | 14,263 | 13,617 | 14,257 | 640      |
|             | 生活介護   | 40 | 11,386 | 11,989 | 11,632 | 10,931 | 10,576 | ▲355     |
|             | 短期入所   | 3  | 160    | 353    | 305    | 566    | 498    | ▲68      |
|             | 計      | 82 | 25,532 | 26,557 | 26,200 | 25,114 | 25,331 | 217      |
| 戸畑活動センター    | 就労移行   | 0  | 612    | 0      | 0      | 0      | 0      | 0        |
|             | 継続 B   | 26 | 8,343  | 7,888  | 7,050  | 6,486  | 6,445  | ▲41      |
|             | 生活介護   | 18 | 4,103  | 4,258  | 4,017  | 4,280  | 4,623  | 343      |
|             | 自立訓練   | 6  | 322    | 297    | 215    | 907    | 782    | ▲125     |
|             | 計      | 50 | 13,380 | 12,443 | 11,282 | 11,673 | 11,850 | 177      |
| グループホームとりはた | 共同生活援助 | 4  | 1,165  | 1,181  | 1,120  | 705    | 0      | ▲705     |

※戸活センター定員は令和3年度変更・グループホームは令和5年11月末で事業廃止

## イ 障害福祉サービス等収入について

障害福祉サービス等収入の推移（決算）

単位：万円

|          | R2 年度  | R3 年度  | R4 年度  | R5 年度  | R6 年度  | R6-R5 年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 就労センター   | 8,432  | 8,786  | 9,848  | 9,740  | 9,909  | 169      |
| 生活支援センター | 19,253 | 20,649 | 21,514 | 21,286 | 23,408 | 2,122    |
| 戸畑活動センター | 13,227 | 12,551 | 11,501 | 11,976 | 13,541 | 1,565    |
| 相談支援センター | 630    | 712    | 531    | 575    | 487    | ▲88      |
| グループホーム  | 473    | 560    | 536    | 353    | 0      | ▲353     |
| 合 計      | 42,015 | 43,258 | 43,930 | 43,930 | 47,345 | 3,415    |

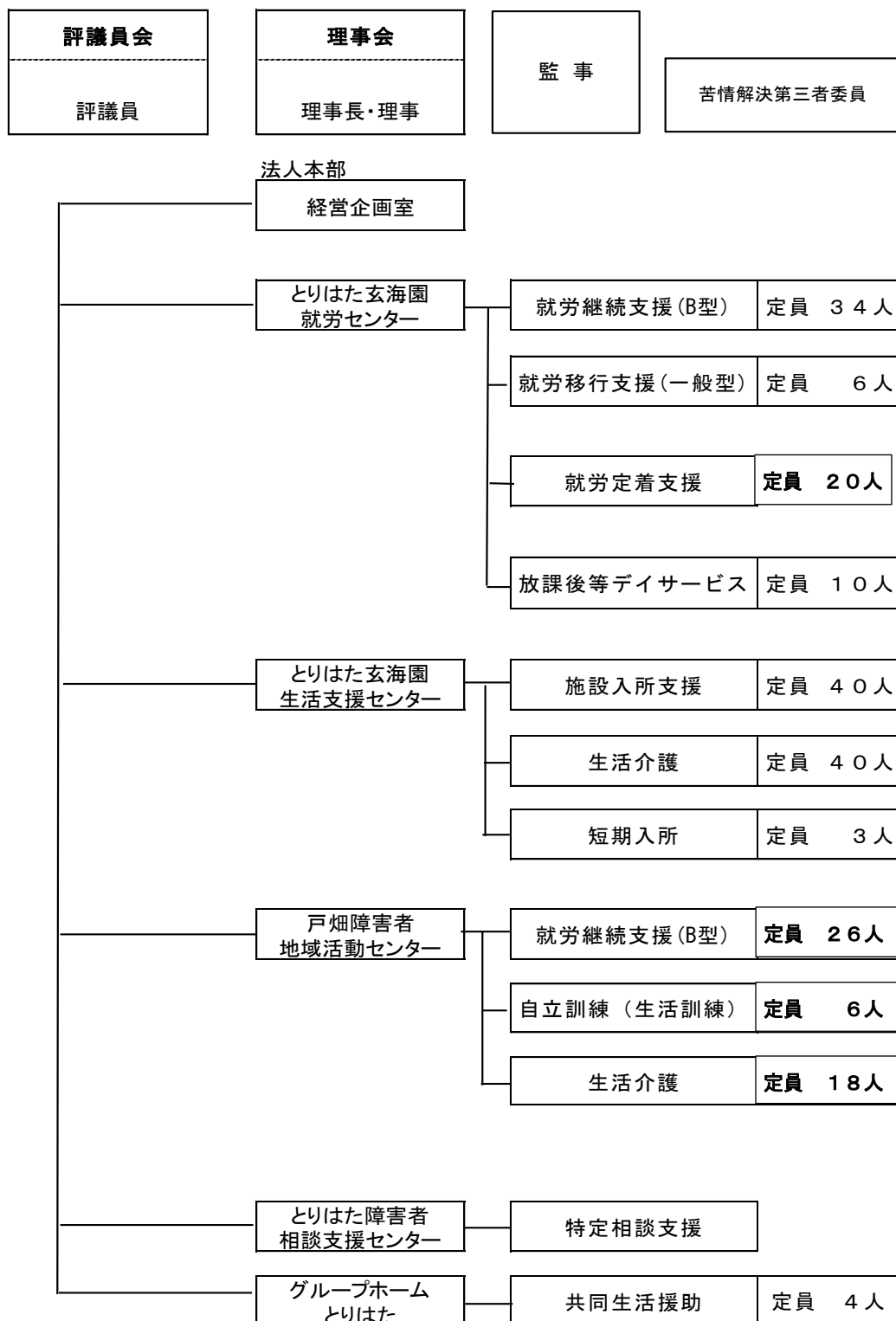
## (3) 就労支援事業活動について

ア 就労支援事業の総売り上げの推移

単位：万円

|          |        | R2 年度 | R3 年度 | R4 年度 | R5 年度 | R6 年度 | R6-R5 年度 |
|----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|
| 就労センター   | 就労移行   | 133   | 170   | 146   | 98    | 174   | 76       |
|          | 印刷作業   | 1,962 | 1,612 | 2,275 | 2,130 | 2,036 | ▲94      |
|          | おやつ作業  | 283   | 319   | 341   | 277   | 220   | ▲57      |
|          | 計      | 2,378 | 2,101 | 2,762 | 2,505 | 2,430 | ▲75      |
| 生活支援センター | 簡易作業   | 24    | 25    | 22    | 45    | 46    | 1        |
| 戸畑活動センター | 洗濯作業   | 368   | 325   | 441   | 413   | 408   | ▲5       |
|          | よろず作業1 | 45    | 436   | 324   | 289   | 292   | 3        |
|          | よろず作業2 | 386   |       |       |       |       |          |
|          | パン作業   | 93    | 100   | 132   | 194   | 242   | 48       |
|          | 自立(生産) | 4     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0        |
|          | 計      | 896   | 862   | 897   | 896   | 942   | 46       |
| 法人計      |        | 3,298 | 2,988 | 3,681 | 3,446 | 3,372 | ▲74      |

#### （４）法人の組織



（令和5年11月20日以降事業廃止）